彦根市まち・ひと・しごと創生本部第１回会議　議事録要旨

日時：平成27年(2015年)2月26日(木)10時30分～

場所：彦根市役所中央町仮庁舎　災害対策本部室

**［企画振興部長］**

それでは、皆様お揃いですので、これより、彦根市まち・ひと・しごと創生本部第１回会議を開催してまいりたいと存じます。本日は、部長会議、人権施策推進本部会議に引き続き開催する形となり、大変お疲れかと思いますが１１時頃を目処に終了したいと思いますので、会議が円滑に進行できますようご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

　まず、開会に先立ちまして、彦根市まち・ひと・しごと創生本部の本部長を務めていただきます大久保市長から開会の挨拶を申し上げます。

**［本部長（市長）］**

はい、それでは引き続きよろしくお願いします。彦根市まち・ひと・しごと創生本部第１回会議の開催にあたりまして、一言ご挨拶申し上げます。

さて、国の総合戦略については皆さんご承知かと思いますので省略しますが、本市におきましては現在、総合計画審議会に諮問しております彦根市総合計画後期基本計画と整合性を図りながら彦根版のまち・ひと・しごと総合戦略を策定していくこととしております。総合戦略策定のスケジュールや、策定方法については後ほど詳細の説明があるかと思いますので省略しますが、私からは、この総合戦略を策定する際の意気込み、基本的な考え方について皆様にお伝えしたいと思います。

昨年１２月の議会答弁でも少しお話しておりますが、本市の人口状況としましては、平成２５年１２月の１１２，８３４人が現在のところピークでございまして、人口の停滞もしくは減少の兆しがあろうかという状況で今すぐに人口が大幅に減少するというような状況ではございません。

しかしながら、すでに危機感を持ち、人口減少対策に取り組んでいる市町村はもちろんのことでございますが、今後はどこの市町村におきましても人口減少対策の取組や活力を取り戻すための事業・施策が展開されていくこととなりますので、今まで以上に危機感を持ち、市政運営をしていかなければ、もはや現状維持では取り残されていく、後退する時代に入ったとも言えます。幸いにも本市には国宝彦根城をはじめとする歴史的資産、観光資源があり、１０万人規模の自治体としては珍しく３つの大学、ミシガン州立大学を含めますと４つの大学機関がありますので若者が本市に入ってくる入口は十分にあると認識しております。

また、市役所の組織としては、ここ数年間で多くの新規採用職員を雇い入れ、職員の平均年齢は県内でも守山市、竜王町についで、３番目に若い組織でございますので困難な課題に対してチャレンジしていく、変化をチャンスと捉え積極的に打って出るには最適な環境が整っているのではないかと感じております。

策定方法も若手職員で構成されるワーキングチームからアイデアを出していただいて、その若手のアイデアに肉付けをしてレベルアップさせるパンプアップチーム、そして、最終調整をしていく創生本部という構成になっており、現在展開している施策の進化もさることながら新しい彦根の魅力、強みを作り出せることに大きな期待をかけているところでございます。

また、この大きな課題は行政機関のみで解決できるものではなく、官・民の協力・連携が不可欠となります。国の総合戦略の施策５原則にも産官学金労との連携、産業界、行政機関、大学等教育機関、地域金融機関、労働組合、最近はメディア、言論の「言」を含んだ形も言われております。そのような外部との連携のもと地域ごとの特色を生かし、PDCAサイクルでの数値目標、結果検証を行い、随時見直しをしていくという流れで官民一体となった成功事例をたくさん作れれば、市役所組織の活性化や地域の活性化も図られ、職員も市民も「彦根市は活力があっておもしろい」、「彦根市を誇りに思う」という環境ができ、活気や魅力あるまさに「強いひこね」のまちづくりができるものと考えておりますので、この機会に職員の皆様が一丸となって取り組んでまいりたいと考えております。

　ちなみに定住自立圏内の彦根市と犬上３町と愛荘町、特に消滅可能性都市として名指しをされた、多賀町、甲良町は必死になってアイデアを出して頑張っているという印象が伝わってきております。それを受けて、本市も危機感を持って取り組んでいく必要があると感じております。幸いにも特別顧問のお二人も本市にはおります。お二人には積極的に外部機関と接触していただいております。そこでやはり言われるのは「せっかくいいものがあるのに、危機感が少し足りない。」ということを常日頃から聞かせて頂いております。いい環境、いい資産、いい人材が揃っているわけですから、あとは本気になって、危機感を持ってまい進していくということだと思いますので、ぜひ皆様奮起をお願いしたいと思っております。

**［企画振興部長］**

ありがとうございました。それでは、早速でございますが、次第の３、議題（１）「彦根市まち・ひと・しごと総合戦略の策定について」ということで、企画課長から今後の推進体制、スケジュール等、本市における地方創生の進め方について説明させていただきます。

**［企画課長］**

　それでは、私からは、総合戦略策定にかかる組織体制やスケジュール、また、現在市で行っております国の総合戦略の趣旨に合致するような事業等について、今後各所属長に照会したいと考えておりますので、主にこれらについて説明いたします。

なお、最後に本部員の皆さまから、まち・ひと・しごとの方向性についてご意見等を頂戴したいと考えており、時間も限られており、総合戦略の策定にかかる説明については、少し駆け足になることをご了承ください。

　それでは、まず、まち・ひと・しごと創生本部の組織体制について説明します。資料No.2の「まち・ひと・しごと創生本部の設置規程」をご覧下さい。

まず、当本部の設置目的につきましては、まち・ひと・しごと創生法が昨年11月に施行され、平成27年度中に市町村版のまち・ひと・しごと総合戦略を策定することとなったため、今回本部を設置したものでございます。

所掌事務は、総合戦略とひとくちに言っていますが、「人口ビジョン」という2060年を視野に入れた「地方人口ビジョン編」と平成31年度までの５カ年を期間とする総合戦略というふたつの部分で成り立っていることから、この両方を策定するという規定になっています。

彦根市の総合計画で言えば、基本構想編が「人口ビジョン」、基本計画編が「総合戦略」にあたるというイメージとなっております。

また、総合戦略ではKPIと呼ばれる数値目標を設定することになっているので、PDCAサイクルにより進捗状況を定期的、これは恐らく毎年になるかと思いますけども、定期的に検証していく必要がございます。

なお、平成32年度以降は5年毎に新たな計画を策定していくことになります。

本部員については、本部長は市長に、副本部長は副市長にお願いし、本部員については同時期に策定する彦根市総合計画と関連があるため、総合計画検討委員の皆さまにお願いしています。

危機管理監は総合計画の本部員ではありませんが、国の総合戦略をみると地域防災の項目がございますので、本部員にお願いしております。

次に、この本部会議の下に次長級の方々で「総合戦略パンプアップチーム」を置きます。設置規程では裏面になります。このことについては、1月8日に開催しました政策調整会議の場で、まち・ひと・しごと創生法の概略や組織体制の素案について一定説明しております。

パンプアップとは、聞きなれない言葉かと思いますが、ボディビルで「筋肉を鍛え上げる」、「チーム・組織などのメンバーの士気や機能を高める」等の意味がありますが、若手職員等を中心としたワーキングチームからあがってきた提案を、鍛えあげ、あるいは、盛り上げながら実現可能なレベルに仕上げていただきたいと考えておりまして、必要に応じて部局間調整や部内調整を行っていただきたいと考えております。

なお、ワーキングチームでは、今回のまち・ひと・しごとの主なテーマ、人口減少というものが一番大きなテーマですが、結婚・出産・子育て支援、あるいは移住促進などの「ひと」の関係、雇用創出や文化・スポーツ・観光振興等による地域産業活性化などの「しごとづくり」関係、都市のコンパクト化や公的施設等の既存ストックのマネジメント強化、あるいは広域連携などの「まちづくり」が主なものとなってくると考えております。

冒頭の市長の挨拶にもありましたが、本市には観光・歴史資産に恵まれていることや４大学が所在しているなどの特色がございますが、これらからテーマを絞り、3つか4つ程度のワーキングチームを設け、アイデアを出していただきたいと考えています。

次にスケジュールですが資料No.４をご覧ください。このスケジュール案については、左から創生本部、パンプアップチーム、ワーキングチーム、事務局という形で時系列に挙げておりますが、パンプアップチームの部分を見ていただきますと、まず、4月にはパンプアップチームを立ち上げ、これからの進め方やワーキングチームの編成についても諮り、方向性についてご審議いただいた後、ワーキングチームを設置したいと考えています。

なお、市の総合戦略については来年度中に策定することを要請されておりますので、秋には県の総合戦略が策定されると聞き及んでおります。まずはそれまでに本市としての素案をとりまとめた後、秋以降に県の総合戦略との整合性を諮る、また、２７年度中に策定します総合計画後期基本計画との整合性を諮っていくというなかなか厳しいスケジュールとなっています。

また、現在、企画課での作業としては、人口推計等の資料作成を進めているので、この資料が準備出来次第、新年度明けには本部会議を開催し、これらの資料の情報提供を行う予定です。

事務局は、企画課に置きますが、まち・ひと・しごとが示すとおり、商工課や福祉関係課、都市計画課など、まち・ひと・しごとに関係する主だった課長級の方にも事務局のメンバーに入ってもらい、ご協力いただきたいと考えているところです。

次に市の総合戦略を策定するにあたりまして、市の現状を照会したいと考えております。資料No.6をご覧ください。

今後総合戦略の策定をしていくにあたり、本部会議、パンプアップチーム、ワーキングチームで論議をしていただくことになりますが、例えば移住促進など、本市がこれまであまり取り組めていない分野においては、新たな施策や事業の立案の検討が必要となります。

また、現在実施している事業についても、人口減少社会に対応するべく何か工夫した方がよいものも考えられます。例えばですが、住宅リフォーム助成についても、移住促進としての観点から空き家活用を行うものに対しては助成を厚遇するなど、制度の一部見直しをすることも考えられます。

もちろん、現在実施している事業が、そのまま、まち・ひと・しごとの趣旨にあてはまり、総合戦略に記載することもあると思います。

このため、まず、本市で現在実施している事業を把握したいと考えています。

この照会文書は本日の本部会議終了後、明日にでも各所属長あてメールで照会します。

調査対象となりますのは、1点目として、まち・ひと・しごと創生の趣旨に合致し、本市において現在実施している事業でございます。

なお、調査票は、国の総合戦略に対応する項目に市の事業を記載することとなっていますが、項目はあくまでも国の総合戦略でございます。

国の総合戦略は大きく「地方における安定した雇用を創出する」、「地方への新しいひとの流れをつくる」、「若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる」、「時代にあった地域をつくり、安心なくらしを守るとともに地域と地域を連携する」という四つの基本目標が掲げられており、これらの基本目標を達成するための施策がこれにぶらさがっております。

市町村版の総合戦略を策定する場合には、国の施策そのままの形ではなく、別の項目となると考えていますので、あくまで目安として概ね該当しそうな項目に記載していただければかまいません。

なお、今回の調査はできる限り現状を幅広に把握したいと考えていますので、調査対象となるか否か迷った場合は、調査対象として提出ください。

次に市として直接行っていない事業、例えば、「町屋コンソーシアム」など市では直接行っていないが、商工会議所など、他の機関が現在実施している事業についても、把握している範囲で結構ですので、記載してください。

このまち・ひと・しごと創生については、地域そのものについての課題ですので、関係団体が連携・協力して取り組んで行く必要がございます。

国のガイドラインにおいても、市総合戦略のPDCAサイクルによる検証については産学金労言などの外部団体を入れることとなっています。行政だけでできうることも限られていますので、実施にあたっては外部団体とどれだけ連携していけるかがポイントになると考えています。

実際、まち・ひと・しごとについては、大学や金融機関からすでに彦根市はどう取り組んで行くのか問合せがきているところでございます。

　また、できる範囲で今後実施を予定している事業についても記載願います。

さらに、この3月補正で臨時交付金の対象として地方創生先行型（地方版総合戦略関連事業）に位置付けたものについては、今回策定する市の総合戦略にあげることが前提で臨時交付金対象としているので、全て記載してください。

この調査結果は企画課で取りまとめ、今後、本部会議やパンプアップチーム、ワーキングチームで総合戦略を策定していただく際に、市全体の現状がわかるような資料として活用していきますので、所属長会議等において部局内への周知をお願いいたします。

以上です。ここまでの説明でご質問等ございましたら、お願いします。

**［総務部長］**

　まち・ひと・しごと創生本部にかかる概略的な説明をいただきましたが、若干関係ないかもしれませんが、今回、PDCAサイクルをまわすための方策としましてKPI指標（Key Performance Indicatorの略、重要業績評価指標の意）を使うという話になっているかと思いますが、今彦根市が取り組んでいる事務事業評価表にも目標数値を掲げることになっております。ところが目標数値はどちらかというとアウトプット（活動指標）の目標数値が多く、アウトカム（成果指標）になっていないように思えます。今度KPI指標を入れていくということになりますと、アウトカムの指標だと思うのですが、この戦略を策定した中において、事務事業評価表の目標数値をどのように整理していくのか、考えを聞かせていただきたい。

**［企画課長］**

　はい、数値目標のご質問でございますが、総合戦略の目標数値におきましては、今総務部長がおっしゃったとおり、アウトプットではなくアウトカムの指標となっております。つまり、委員会を何回開催した、何回講座を開いて、延べ何人来られたというような行政活動そのものの結果ではなくて、行政活動の結果として、住民にもたされた便益というような説明になっておりますが、このことによって、例えば人口が、何人実際に市に移住されたとか、そういった具体的な数値目標となっております。事務事業評価等の指標とどう合わせるかについては、整理できていない部分ではございますが、事務事業評価につきましては、なかなかアウトカムの指標設定が難しい場合がございますので、事務事業評価と総合戦略の数字を揃えることができる部分は揃えたいと思いますが、難しい部分もあると考えております。

**［総務部長］**

　まち・ひと・しごと総合戦略が策定されましたら当然、今の事務事業評価表に記載されている事業で挙がってくるべきものもあると思います。そうすると、総合戦略ではアウトカム指標になっている、一方事務事業評価ではアウトプット指標がそのまま残るという状況になります。そうすると、事務事業評価表との関連が分かり難くなるのではないかと思います。そこを事務局で整理していかないと何が何だかわからなくなってくるのではと思いますので発言させていただきました。

**［企画振興部長］**

　その点、検討してまいりたいと思います。

**［福祉保健部長］**

　そもそも論として、スケジュールが作業工程のように見えるのですが、例えば定住自立圏で、圏域で人口減少に対応していくとか、役割分担していくとか、狭い範囲で考えるとそうですが、地方創生はもう少し大きく、地方の核となる都市に活力を得させて、それに対しての批判も一方であるわけですが、彦根市が周辺４町や他の市との都市間競争を意識して、総合戦略を策定するのか、特に定住自立圏の関係で言いますと、彦根市の定住人口が増えていくことが、４町の人口減少につながっていくことに成りかねないということなんかは、この戦略の中では、一方で定住自立圏の取組をやっていて、どう考えていくのか視点を持たないと、彦根市が都市間競争で勝てばいいという話で進めるべきではないと思うのですが、そういう議論はどこでこれからしていくのか、スケジュールが作業工程に見えて仕方がない。国からこういった法律ができて、取り組んでいかなければならないということ自体が根本的な話として地方創生になっているのかという、そういった議論は、パンプアップチームやワーキングチーム、我々を含めてですが、どうしていくのか、どこかで議論を持つべきかと思いますがいかがでしょうか。

**［企画振興部長］**

　そもそも論ということでしたが、これは、例えば２０６０年に１億人の人口規模を維持するということが目標に置かれている。また、東京への一極集中の是正も挙がっている。今おっしゃったような定住自立圏での取組はやっていく話ですが、ここでの意識としては、大都市圏からの流入に重きを置いているのかなと考えております。それと地方独自のなかで、人口増とは言いませんが、定住者を増やしていき、人口減少を食い止めよう、そうでなければ、自治体が成り立たなくなっていくのかと思っております。定住は定住の中で、地方で受け皿を作っていくという部分がありますが、結果として近隣市町から彦根市へ流入してしまう可能性はございますが、逆に本市から周辺４町に流れ、減少となる可能性もございます。それはそれとして、もう少し視野は大きく持つ方がいいかと思います。

　小さな規模ではなく、本市の将来をということで、どこからという話であれば都市部からということになります。その結果、周辺、県内から取り込むことになってしまう部分もあろうかと思いますが、それは仕方がない部分もあると思います。

**［福祉保健部長］**

　そうした時に、人口減少というのは、やむを得ないという視点に立つべきかと思います。日本全体もそうですし、都市に流れていかない、いかに緩やかに止めていくのかということの方が視点としては大事、そこの部分をきちんと抑えて政策に入っていった方がいいと考えておりますので、視点を早く、職員が共有できる機会を持てればと思います。もう持っていないといけないのかもしれませんが。

**［企画振興部長］**

　まさに、おっしゃるとおりでございます。この時代に人口増と旗揚げしたところで難しいでしょうし、市長の冒頭の挨拶でもその辺の話が入っていたかと思うのですが、人口増になれば良いですが、望んだところで難しい、いかに緩やかにというところだと思います。

**［福祉保健部長］**

　あともう１点よろしいか。市民という文言、レベルというか、さきほど、産官学金労言とありましたが、市民を巻き込むということはないのでしょうか。

**［企画振興部長］**

　当然、産官学金労言の関係者、これは行政だけで行うものではありません。それぞれ現在の業務の中でも、例えば地方創生の中に位置づけられる施策を行っていることもあって、詳しくは現状調査をさせていただきますが、その中でも当然市民を巻き込んだものも数多くあると思われますし、市民の意見を聞き入れた中で進めているものがあると思っております。当然そういった中に組み込まれているものだと思っておりますし、この地方創生においてもそういった関係者達との連携を取らずして進めていくつもりはございません。

　今ほど示したスキームの中では産官学金労言との意見交換等がはっきり出ていなかった部分がありますが、それについては今後煮詰めていくということになろうかと思いますが、当然、例えばパンプアップチームと関係者で議論をしていく、我々が持っているネタが揃った段階で、足りているところ、足りていないところを把握し、今後やりたいところも出てくると思います、また金融機関等あるいはそれぞれの関係機関でやりたいこと、想いもあります、そうしたものを聞かせていただいた中で更に詰めていくということになろうかと思います。そのタイミングは事務局サイドに任せていただきたいと思っております。

ワーキングチームには特定のテーマの中で深く掘り下げてもらって本市ならではのものを出していただきたいという希望を持っております。

**［市民環境部長］**

　全体のイメージがまだ完全には掴めておりませんが、今回照会をされるものは、事業ベースで現状調査をされるようですが、究極の目的、何をつくるのかということ、そこのところがしっかり見えていない、私自身が理解できておりません。要は、これをきっかけに自立的に今後長期にわたって動いていく、「まち・ひと・しごと」が動いていく仕組みを作ることが究極の目標と考えればよろしいでしょうか。それとも、今ある事業ベースで国の線路の上に乗せていくということでしょうか。経済が循環するような仕組みを、彦根市の中で自立的に循環する仕組みを作っておくことが究極の目標であればそういった視点からスタートしなければならないと思うのですが、ワーキングが始まった際、アイデアを出してくださいと言う場合に、どのレベルのアイデアを出すのかということも迷ってしまうと思います。また、細かい話ですが、ワーキングメンバーもピックアップなのか、公募をとるのかということでも出てくるアイデアの質がかなり違ってくると思っております。一番大きい目標、何をこの総合戦略の中で作っていくのか共通理解をしておかないと先の議論がしにくいと思います。

**［企画振興部長］**

　これはあくまで人口減少対策で、今後人口が減っていくであろうという中で、彦根市としてそれをどうするのかということです。究極的にはその点になろうかと思います。そのためには何が必要かということにはいくつかの観点があろうかと思いますし、最終的には、しごとが本市にあるかどうか、究極的にはそこだと思います。しごと＝所得＝雇用、そこがベースになっていて、地方で若者が定着してくれる、産業、農業、観光と新たな雇用が生まれ、定着がはじめてでてくる。そこにはいろいろ関係するところが全部でてくる。そして流出していかないだけでも、少子化であるとか、結婚等の支援をして定住していただく施策とか、結局、そこに並んで派生していく切り口があるように思います。そのあたりについて取り組んでいる中身、まずは実施していること、そして企画課長の話としては、今現在実施していないことも含めて出してくださいと、掴んでいる情報は全部出してくださいということです。ただ、それをそのまま市としてやっていくということではございません。ひとつの切り口の中で、本市で取り組めるものはないか、それもパンプアップチームだけで考えるのも大変なのでワーキングチームでも新しいアイデアを出していく。この策定方法については他の多数の市町村と異なる独自性のある部分でもあるかと思っております。ではそこで何を議論するか、アイデアをだしてもらうかということが出てくると思いますが、例えば、これは単なる例示に過ぎませんが、外国人観光客誘致や結婚支援など、彦根の現状を踏まえた上で本市ならではのものがでてくれば、これは地方版の総合戦略に載せて、予算化し、きちっと実行していくということになると思います。それ以外の部分も当然、他の部局で取り組まれるものもありますので、この組織的にはパンプアップチームがきちんと機能するかどうかにかかってくると思います。説明になっているかわかりませんが。

**［産業部長］**

　先程、企画振興部長からもコメントをいただきましたし、市長の冒頭の挨拶、あるいは、資料No.６の現状調査の照会でも、行政だけではなく全体での取組が必要不可欠であり、産業界、金融機関等とも連携・協力しながら、ということになっております。資料No.３を見ますとアドバイザー、コンシェルジュ、あるいはワーキングの中でのアドバイザー等記載があり、断片的にはこういった形で入っていただいておりますが、市内の各種の産業、金融機関は、この総合戦略をどうしていくのかということに非常に感心を持っておられます。できる限りそういった方々との協議や意見の集約、この本部会議とのすり合わせのタイミングも早いに越したことはないと思いますし、そのあたりをもう少し明確にしていただけると助かります。

**［企画振興部長］**

　正直なところ、走りながら考えているところがございますので、一応スケジュールは出しておりますが、今後このスケジュールをコンクリートしていくというよりも流動的になっていくかと思っております。今おっしゃったタイミングもできるだけ早くということも我々自身も思っておりますが、そのタイミングは追ってお知らせさせていただきます。

**［本部長（市長）］**

　大いに議論を深めていただいていますが、実際難しい問題がいろいろと出て参ります。先ほど福祉保健部長がおっしゃったような定住圏でも、政策が違っている部分もあります。いわゆるサービス競争ではなく、切磋琢磨していくということ、我々の強みが何か、そこを磨いていく。例えば最近の例ですと、ふるさと納税もそうです。制度自体に大反対されている学者もたくさんおられますが、現状としては、いろいろなところで知恵比べをしている。サービス競争という方向に向かうのではなく、知恵比べという方向になっていくとそれはそれで価値があると言えます。本質的な問題もありますが、とにかく切磋琢磨し、お互いがいいものをだしていく、元気がでてくるということを目指して頑張っていきたい。必要に応じて深く掘っていただき議論を深めていただきたいと思います。

**［都市建設部次長］**

　資料No.６の照会ですが、先程から話が出ていますように今後の計画とか今後の予定を書いてもよろしいのでしょうか。

**［企画課長］**

　資料の記載例は抜粋ですので申し訳ないのですが、例えば都市計画マスタープランであれば平成２７年度中に策定し、こういった方向を示していく予定であるというようなことも記載くださいという形になっております。いま検討している事項で、この総合戦略に関連するような部分がありましたら書いていただけると参考になるのでありがたいです。

**［都市建設部次長］**

例えば、国交省から、以前市長にも説明に来られましたが、立地適正化計画と言いまして、新たに「まち」の集約化を図るとか既存ストックを利用する施策を国においても推進していかれる、そういった計画についても都市建設部としては進めていく方向で準備が出来たらと思っていますが、そういった準備段階のものもここに記入させていただいて、周知していくということでよろしいでしょうか。

**［企画課長］**

　はい、それで結構でございます。

**［市民環境部長］**

　今、都市建設部の方から話がありましたが、そういった動きに、例えば各部局で持っているソフトメニューを上乗せして、より付加価値を高めるという議論もこの中ではありということですね。そういったイメージを議論していきましょうということでよろしいですね。

**［企画振興部長］**

　出てきたものをそのままするようなものではございません。

**［市民環境部長］**

　アレンジしながら、そこの仕組みづくりを検討していく。

**［企画振興部長］**

　連携しなければできないこともたくさんありますので。他にいかがでしょうか。ないようであれば、本日は時間の都合もございますので、本日の会議は終了させていただきたいと思います。

なお、それぞれの部局におきましては様々な業務でご多忙とは存じますが、事務局から調査・照会をさせていただくことや、若手職員のワーキングチーム、次長級のパンプアップチーム等への参加依頼等お願いすることとなります。せっかくのチャンスでもありますので、国からの交付金を充当するための施策・事業ではなく、本市の特徴を活かし、人口減少を極力抑え、人口減少の中でも活気ある「強いひこね」を実現するための施策・事業を多く生み出していきたいと存じます。そして、新たな事業を抱え込むだけでは組織はパンクしてしまいますので、同時にスクラップする事業、または、現在展開している事業を変更し、新たな事業にシフトしていくこと、あるいは民間事業者や市民が主体的に取り組んでいただくことも同時に重要な課題でございますので、そういった視点も持ちながら今後検討してまいりたいと考えておりますのでよろしくお願い申し上げます。

（終了）